

# 現代中国の公民教育における公民意識形成 の論理

## —中等教育段階における教科「思想品德」及び「道徳と法治」 の教科書分析を通して—

WANG Siping

中国では 21 世紀に入って、知識偏重の「応試教育」から国民の資質を重要視する「素質教育」への教育改革を全面的に展開している。その「素質教育」への転換のもとに、社会系教科教育課程を思想政治教育から公民教育へと改革していこうという動きが急速に進められてきている。その中には、中国の中学校において公民教育のカリキュラム、公民教育の役割を果たしている旧教科「思想品德」が改革を行い、新教科「道徳と法治」へと転換された。そこでは、どのような目標に基づき、どのような内容と方法を通じて、どのような公民意識を形成しようとしているのだろうか。以上のような問題意識を踏まえて、本研究においては、中等教育段階、とりわけ中学校を対象として、新旧のカリキュラム及び教科書の比較分析を行うことにより、公民教育を通じて公民意識形成の論理やその変化を解明することを目的とする。

また、1990 年代に入り、公民教育への関心が世界的に高まっている。近年以来、日本は公民教育の理論と実践の発展を重視してきた。特に現代化社会の発展を促進するとともに、先進国の公民教育の経験などを学習しながら継承した。同時に国民の素質を高め、経済の発展を推進した。中国は日本と同じく東アジア儒教文化圏に属し、類似的な文化背景と伝統を持っている。日本の公民教育の概況や特質などを分析することによって、中国の公民教育の今後を考える上でどのような示唆を与えるのかを明らかにする。

第一章では、まず公民教育に関する理論的検討を行い、現代中国における公民、公民意識、公民教育の概念を規定した。また、現代中国と日本における公民教育の概要を整理し、それぞれの公民教育の特徴を明らかにした。以上の整理した内容を踏まえて、本研究を展開する。

第二章では、時間比較の視点から、公民教育カリキュラムの役割を果たす『義務教育思想品德

課程標準(実験稿)』と『義務教育思想品德課程標準』比較分析を進め、また旧教科「思想品德」と新教科「道徳と法治」の教育目標、編成理念、教科書の内容構成、公民意識を目指す学習活動をまとめて比較分析することを通して、現代中国における公民教育の教育目標は公民意識の育成を重視し、その中では最も法治意識が重要視され、かつ理想的な教育目標を追求せず、自由平等、公平正義・民主法治という思想観念と良好な道徳品質を持ち、理想、文化、紀律のある社会主義の合格な公民の育成を重視してきたということを明らかにした。そして、学習内容は社会主義に関する内容、法治教育、公民意識の育成をより一層重視し、その中では、学生の法治意識の育成を最も重要視されてきた。また、知識の詰め込みではなく、学生が主体的な学習を重視する。最後に、学生が公民意識に関する知識面と実践面を統一し、日常生活からの課題を通して学生の公民意識を育成することについて解明した。

第三章では、空間比較の視点から、日本における中等公民教育の中核を担う「中学社会公民的分野」と中国における中等公民教育では現行の新教科「道徳と法治」の編成理念、目標、公民意識の育成を目指す学習活動の比較分析を通して、現代中国における公民教育の教育目標は日本と同じ、社会に参加し、より良い社会をつくっていく能力と技能を高める公民意識・素質などを育成するが、現代中国の社会主義イデオロギーの要請に応えようとして、国情教育と国家主義の要素が残っている。中国の公民教育の中核を担う教科書「道徳と法治」は中学校において1学年から3学年まで使用され、公民意識の育成に関する学習内容が各学年に分散し、日本より地理・歴史と関連する学習は少ない。さらに、両方とも学生が日常生活の課題を中心として、学生の主体性を重視する学習活動が展開されている。一方で、中国は日本の学習活動より公民意識の育成に関する実践面の学習を重視している。

第四章では、時間比較・空間比較の視点から、以上で明らかにした現代中国の公民教育における公民意識形成の論理を踏まえて、中国の公民教育が今後の発展のために、教師が教材観の転換と公民意識に関する知識蓄積と資質の向上、同時に学校では公民意識の育成を目指している総合実践活動を展開すること、公民教育の目標および内容をより一層明確にすること、学校における多様な公民教育の課程体系を開発することを課題として提案した。

本研究は公民教育のカリキュラム及び教科書レベルで比較分析を通して現代中国における公民教育の特質を大まかに分析した。今後は、現地の学校で使用されている公民意識の育成を目指す教案に基づき、現代中国における公民意識形成論理の解明に取り組んでいきたいと考える。